

生活支援体制整備事業の取組等について

〔公開資料〕

令和7年度 第2回大阪市地域包括支援センター運営協議会

令和7年10月9日

大阪市福祉局 高齢者施策部地域包括ケア推進課

生活支援体制整備事業の取組等について

令和7年10月
福祉局高齢者施策部
地域包括ケア推進課

1 事業実績（令和3～6年度）

			3年度	4年度	5年度	6年度
地域資源・サービスの開発等の状況	介護予防	新規・拡充（件）	159	204	284	264
		継続支援（件）	187	211	225	281
	生活支援	新規・拡充（件）	23	23	44	20
		継続支援（件）	12	19	30	77
	計	新規・拡充（件）	182	227	328	284
		継続支援（件）	199	230	255	358
担い手養成講座・ワークショップ等開催状況	介護予防	講座数（件）	117	295	270	277
		実参加者数（人）	3,113	3,442	3,588	5,983
	生活支援	講座数（件）	35	33	33	36
		実参加者数（人）	477	368	549	441
	計	講座数（件）	152	328	303	313
		実参加者数（人）	3,590	3,810	4,137	6,424
協議体開催状況	第1層		57	61	50	52
	第2層		92	133	139	157
	計		149	194	189	203
ワーキング開催状況	第1層		206	154	91	74
	第2層		184	234	156	176
	計		390	388	247	245
地域ケア会議への参画状況	第1層		215	211	212	223
	第2層		295	384	285	248
	計		510	595	497	471

※ R 3年度より、地域資源の創出における継続支援・第2層での協議体及びワーキングの設置開始。

参考：各区别活動状況

区名	主な内容	
北区	新規・拡充	<ul style="list-style-type: none"> ・男性高齢者の居場所や社会参加について、昨年度の第1層協議体にて、高齢者の職業体験（見学）について意見があがった。それらをキーワードに、ワーキング会議では男性高齢者の外出機会や社会活動について検討を深め、その足がかりの1つになるよう、講座の企画に至った。 ・区内にあるビール醸造会社や無印良品、北区ガイドボランティアへ新たに働きかけ、協力を依頼し、「きたれ！キタメン！大人のキタ活講座」(職業体験や町歩き)を開催した。7名の参加があり、参加者全員が講座後もＳＣからの情報提供など、継続した関わりを希望されている。
	継続	<ul style="list-style-type: none"> ・キタスマ（スマホボランティア）のグループ化および自主運営に向け、段階的な支援が必要。 ・定例会や勉強会の企画、調整の実施や、地域等からの依頼に対する相談会の需給調整を行った。 ・各地域で開催されているスマホ相談コーナー等にキタスマメンバーが参加し、活躍している。
都島区	新規・拡充	<ul style="list-style-type: none"> ・都島区北部圏域は都島区圏域と比べて高齢者人口が多いものの、「通いの場」となる公的な施設がなく、主な活動拠点が地域の福祉会館や老人憩の家となっている。 ・通いの場の発掘のため、寺院、高齢者施設や商業施設を訪問（令和6年度23カ所）。 ・新規3カ所の商業施設にてチラシや広報紙を配架・掲示してもらうことができた。寺院を訪問した際、地域開放に向けた良い反応があった（担い手が高齢者などの理由から活動実施には至らなかった）。高齢者施設1件から、地域開放や場所を活用できるという情報を得ることができた。
	継続	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度eスポーツ体験会を実施したところ、参加者から「続けていきたい」との反響があり、都島区老人福祉センターのサークル活動、小地域の活動や男性のみの活動の立ち上げにつながっている。 ・高齢男性を対象とした体験会を10月に実施し、男性のみで月1回本格的に活動することとなり、体験会参加の男性も引き続き参加となっている。 ・eスポーツは若い世代と楽しめる活動であり、ボランティアとして高校生が参加したことで高齢参加者の意欲向上につながった。
福島区	新規・拡充	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で休止していたコミュニティサロン（認知症カフェ）が令和5年11月に活動を終了したため、気軽に立ち寄れる居場所が減少していた。 ・ボランティアスタッフとして男性の居場所づくりボランティア団体「浪花ふくしま男塾」に協力を仰ぎ、新たな活動の場の提供及び新規メンバーの勧奨を行った。 ・新たな活動の場として、福島ともしび苑で「浪花ふくしま男塾」によるカフェボランティア活動に繋がった。
	継続	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度ちーむオレンジサポーターに登録した、健康王国体操サークルにて、認知症の方へのサポートや対応について関心が高まっていた。 ・区社協で開催した災害ボランティア立ち上げ訓練への参画や、認知症の研修や講座への参加勧奨等を実施した。

-2-

参考：各区别活動状況

区名	主な内容	
此花区	新規・拡充	<ul style="list-style-type: none"> ・住民同士の支え合いの有償ボランティア活動である、このはな助けあいの会『あいっこ』について、事務局が会員の特性を把握できておらず、マッチングが困難な状況だった。 ・ボランティアスキルアップ講座の実施や、会員の継続意思確認、ケアマネジャーへの事業説明を行うことで、利用会員が22名増加し、計34名になり、さらに、依頼件数の増加につながった。
	継続	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度立ちあがったおせっかい食堂はカフェの店主が運営しており、地域とのつながりが元々少なかったこともあり、参加者が少なかった。 ・コロナ禍で休止していたふれあい喫茶が4月から再開するにあたり、代表者間の交流などの連携を支援することで、互いの活動の周知などにつながった。
中央区	新規・拡充	<ul style="list-style-type: none"> ・中央区全域で「ニコニコ無償ボランティア活動（買い物、掃除、外出同行、水やり、家具の移動など1時間程度の生活の困りごとをお手伝いする活動）を実施。 ・新たな地域資源として少しずつ地域に周知されるようになってきており、ケアマネからの依頼も増えてきた。 （利用者61名、活動者40名、活動件数100件以上）
	継続	<ul style="list-style-type: none"> ・中大江地域においてヘルスチェックを実施し、地域住民の健康に対する意識を高めるとともに、地域住民が測定を担当し、住民同士の交流の場とする取組みを実施している。 ・令和6年度も2回実施し、認知症を疑う症状の方が自覚できるようになるなど、認知症に対する意識を高めることができた。
西区	新規・拡充	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の生きがいづくりや地域とのつながりづくりのため、依頼が増えている福祉教育のサポートをするボランティアの養成を目的に令和6年11月に講座を開催。 ・養成講座の終了後、すぐに福祉教育サポーターとして活躍できる場を3回提供することができ、個人ボランティアの登録に至った。 ・登録した福祉教育サポーターは中学校の福祉教育でポッチャのサポーター活動などにつながった。
	継続	<ul style="list-style-type: none"> ・令和5年度に男性限定でeスポーツの講座を開催したが、女性から開催の要望の声が多くあがったため、令和6年度は参加条件を無くして介護予防を目的とした新しいレクリエーションの体験会を目的に開催。 ・担い手として立ち上げに興味を持っていたために、同じ地域や近隣地域同士になるようチームを編成し、体験会の後に機器の接続手順や運営方法について学べるようにした。
港区	新規・拡充	<ul style="list-style-type: none"> ・区内の地域資源を地図で把握できるような媒体が欲しいとの声を受け、手軽に見ることができる「集いの場MAP」を作成した。 ・「区社協だより」の特別号として発行し、ポスティングによる戸別配布を行い、新たな層にも周知できるようにした。 ・区社協への連絡が初めての方と出会う機会となった。
	継続	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者のスマホの普及率が上昇する一方で、スマホに関する相談や消費者トラブルも増加していることから、以前より継続してスマホ支援の取組みを実施。 ・八幡屋スポーツパークセンターと共催で「八幡屋公園スマホ撮影講座」を開催し、参加者が撮影した写真を社協とパークセンターのInstagramで公開した。 ・ＳＣが運営支援する有料老人ホーム「オレンジカフェ」において、入居者と地域住民を対象にスマホ相談会を開催。

-3-

参考：各區別活動状況

区名	主な内容	
大正区	新規・拡充	・大正区北部圏域で実施している「もじもじサロン」に鶴町地域からの参加者、参加希望者が増加しているが、 鶴町地域から通うには距離があり、通いづらい面があった。 ・立ち上げに向けて、鶴町地域社協会長と相談。会場（鶴町第1福祉会館）使用の承諾を得る。 ・小規模でも静かに過ごせる場として機能し、 他の場に参加しづらい方の継続した参加につなげることができた。
	継続	・前年度に運動の場づくりとして実施した ウォーキングイベント が好評であり、継続参加を希望する声が多かったため、 運動の機会づくりとして継続した。 ・活動終了後、ウォーキングマスター認定証とナップサックを渡し、 個人でのウォーキングの継続を促した。 （ウォーキングマスターとして15名を登録）
天王寺区	新規・拡充	・ 外出の機会の創出及び高齢者の孤立化防止 のため、勝三住宅自治会で 勝三にここ食堂 を月一回開催した。 ・開催にあたって、「臨時出店届」の 情報提供 や、住宅住民に 周知 するための ばり を作成などの支援を行った。
	継続	・令和3年に桃陽地域で実施したアンケート調査に基づき、令和5年度4月から、 ちょっとした困りごとを抱える人への助け合い活動として「桃陽助け愛隊」を開始。 ・定期的に活動の周知や依頼の増加について活動者と検討、相談、提案などを行った結果、 令和6年4月から令和7年3月末時点で実行件数が述べ19件と、令和5年度の3件から増加した。
浪速区	新規・拡充	・ヤマキウ株式会社の課長を講師として、「 男性のための出汁講座 」を10月～11月で3回実施。 ・ボランティアありきではなく 活動できるものを立ち上げた ところ、気軽に参加できることもありシニア男性が活き活きと活動できる場につながった。 ・様々な特技を持った方が集まり、 浪速区のシニア男性の生きがいづくりの場の第一歩としてな にわ 100男を立ち上げることができた。
	継続	・近隣にスーパーがなく、買い物困難な高齢者が 移動スーパー「とくし丸」 を利用しているが、 利用者が少ない 課題があった。 ・買い物される方の様子を見て、 困難な方には自宅まで届ける などの支援を実施。 ・利用者が減少しているがニーズはあるので今後もニーズを確認していく。
西淀川区	新規・拡充	・ 傾聴ボランティアの需要増や男性の社会参加 が課題となっていることから、 カフェボランティア養成講座 や 傾聴ボランティア養成講座 を実施。 ・ 新規の集いの場所「ふくふくカフェ」 の立ち上げや 5名の個人傾聴ボランティア登録 につながった。
	継続	・ 健康麻雀 の定期開催するために、活動場所の予約や 必要物品の貸出及び運営全般の補佐 を行っている。 ・それぞれの参加者が役割を担いながら、 毎月1回の安定した定期開催 を実施できている。

-4-

参考：各區別活動状況

区名	主な内容	
淀川区	新規・拡充	・ 町会未加入の方が、地域の活動に参加できない という気持ちの負担を軽減するため、 町会加入・未加入の両者が通える新しい居場所 として、お寺でのカフェ実施を支援。 ・ 町会未加入の方でも参加できる場 として地域への周知等を中心に行った。
	継続	・ 地域活動への参加者が横ばい・減少傾向 であった地域に対し、ふれあい喫茶や百歳体操の活動などにおいて プログラム内容を協働して企画するなどの支援 を行った。
東淀川区	新規・拡充	・南西部包括からの距離が一番遠く、相談窓口の認知度も低く、繋がりが無い北陽住宅に、 暮らしの保健室を新規に立ち上げ 、年間6回、土曜日の昼間に会館で2時間程度開催した。 ・ 毎回16名以上の参加者 があり、 住民からも好評 であることがアンケートや会場で現れている。
	継続	・地域社協が実施しているエコクラフトの活動について、参加者は安定しており認知症予防の取り組みになっているが、 地域の状況や担い手の問題から継続について課題 があった。 ・開催時に 周知用のチラシ作成 や、不定期で ミニ講座を開催 するなどの支援を行った。
東成区	新規・拡充	・地域の会館や憩の家での活動は、参加している高齢者が固定しているため、 新たなつながりを目指し、eスポーツを活用した集いの場の開催に向けて取り組んだ。 ・まずは、eスポーツについて知り、実際に体験ができるよう「eスポーツ体験会」を開催した。体験した人は「 定期的にeスポーツに取り組みたい 」と感じており、定期的な開催については前向きに考えてくれている。
	継続	・ “そなえる”私のくらし方（リーフレット） について紹介し、高齢者に取り組んでもらう場を設けた。その場でチェックしてもらい、疑問点などについては質疑応答の時間を設け対応。地域福祉活動や地域包括支援センターの契約時に配布してもらうよう声かけを行った。
生野区	新規・拡充	・ 地域活動への男性の参加が少ない ため、男性のカメラボランティアグループ立上げ支援を実施した。 ・男性のカメラボランティア養成講座を経て、 カメラボランティアグループ「晴れ姿写真隊」が誕生 した。地域や関係機関等より行事やイベント時に依頼が来るようになり、活躍の場が広がっている。
	継続	・スマホ講座について、スマホについて学びたいというニーズはあるが、 講座を開催も参加者が集まらない状況 であった。 ・ 冊子を区内に配布 することにより情報提供の範囲が広がり、 新規で学びたい方が5～6名増え、現状も徐々に増えてきてる。

-5-

参考：各区别活動状況

区名	主な内容	
旭区	新規・拡充	・地域でスマホを定期的に学べ、かつ交流の場であるスマサークルにおいて、 スマホサポーターを紹介し、派遣を行い、さらに交流の幅が広がるよう支援を行った。 ・開始当初は募集人数 5 人程度でサポーター 2、3 人で参加者 1 人に教えてもらっていたが、 現在は参加者も増え、サポーター同士助け合いながら毎回 10 名程度の参加者が来られている。
	継続	・買い物支援に関するニーズにともない令和元年度に活動が開始されたものの、コロナの影響により休止して以降、継続した活動に至っていなかった「 あさひあったかお買い物ツアー 」を 継続的な取組とするため、アンケートや検討会を実施した。 ・今年度開催が無事終了、参加者にも非常に喜んでいただけたため、 来年度は回数を増やし、定期開催に向けて進めていくことになった。
城東区	新規・拡充	・区内の誰でも参加可能な喫茶活動で スタンプラリーを実施。 ・コロナで休止前と比べて参加者の減少が目立ち、それに伴い活動者のモチベーションが下がっている喫茶が多かったが、スタンプラリーを機に、 地域活動デビューをされる方が出てきたり、今まで実施したことなかった、喫茶活動者同士の情報交換会が開催されるなどの成果が見られた。
	継続	・歩行に不安がある住民も参加できる趣味活動として立ち上がった「すわくらふとの会」について、徐々に参加人数が増えるにつれ 活動者の負担が増えてきたため、会場の変更や活動内容の助言 を行った。 ・結果として、 参加者だった人が指導者として他の参加者に教えるなど、良い流れができた。
鶴見区	新規・拡充	・地域住民主体の、 ポッチャを通じた継続的な交流の仕組みづくり のため、ポッチャ交流大会実行委員会を立ち上げた。 ・実行委員会を通して、地域を越えて練習試合をしたいという声のあったチームを繋ぐなど、 たくさんのチームと出会え、交流できて楽しかった という意見が多く挙がった。
	継続	・通所施設から、「俺のシニアクラブ」にちむオレンジサポーターとして 施設のレクリエーションを手伝って欲しいと依頼 があり、サークル代表者と施設職員で、地域貢献の内容打合せし、施設でポッチャをすることに決まった。 ・毎月 1 回介護職員と連携を取り、施設を自主的に訪問し、 利用者と関わることでモチベーションアップになり、地域貢献にもつながった。
阿倍野区	新規・拡充	・高齢者の居場所の情報が必要な方に行き渡っておらず、高齢者本人だけでなく、家族や支援者に情報が届く方法を検討する必要があるため、 モデルケースとして、晴明丘地域の百歳体操の様子が分かる動画などを作成した。 ・次年度以降に、ホームページへの掲載などを進めていく。
	継続	・買い物が不便な地域に、昨年度、阪急本店「走るデバ地下」を召致した。好評であったため、今年度も引き続き召致した。 ・周知用のチラシ印刷及び配布の協力や、召致のやり方などノウハウの蓄積、アンケートによるニーズの集計・集計結果に見られるニーズについて関係各所との情報連携ができた。

-6-

参考：各区别活動状況

区名	主な内容	
住之江区	新規・拡充	・ 男性独居高齢者が増加 しており、とりわけ、食事にまつわる課題が顕著であり、孤食や低栄養、アルコール依存などの具体的事例が地域課題となっているため、「 介護予防×食生活支援 」をテーマに食事の機会とコミュニケーションの場として、「 花の町キッチン 」を立ち上げを支援した。 ・活動の枠組み、協力者の出現など 継続的な活動に向けた取組み ができた。
	継続	・ 百歳体操のモチベーションの維持 を目的に百歳体操の効果を伝える講演会を開催。 ・講座の参加者からは「自分がいかに手抜きしているか分かった」など 意欲的な声を多数聞くことができた。 ・百歳体操マップを発行し、区内に配布した事で 百歳体操に関する問合せが増えた。立ち上げの相談が 2 件あがった
住吉区	新規・拡充	・清水丘地域 3 丁目の方が参加できる通いの場が無かったので、 百歳体操の立ち上げを支援した。 ・百歳体操立ち上げ時は体操のみであったが、+αのイベントをつなげることで参加者同士のコミュニケーションも増え、 お互いの見守りができるようになった。
	継続	・地域の会館でポッチャ練習会が月 1 回開催され、 コーディネーターも毎回参加し伴走支援 している。 ・Facebook で活動の紹介をするとともに、参加者の募集に活用できるようにその原稿を地域向けに直してチラシ（紙媒体）を作成した。 ・ポッチャ活動に伴走しているなかで、 同じ老人会の生け花活動についての相談 をいただき、そこにも参加し、支援するようになった。
東住吉区	新規・拡充	・ UR集合住宅内の集いの場が減少 しており、また地域会館まで距離があったため、 健康体操ができる居場所を立ち上げ、地域住民が定期的に交流する場を作った。 ・立ち上げにあたっては、 民生委員とUR事務局に趣旨説明・協力依頼 し、居場所立上げに向けた打合せを行い、講座の開催方法や周知方法等について話し合うなどの支援を行った。
	継続	・コロナで活動休止となっていた「 なでしこ南田辺百歳体操 」を 活動再開するための支援 を実施。 ・施設が主体となり開催していることから、 再開へのハードルが高かったが、施設長・区役所保健師・区社協で再開に向けた打合せを実施し、体験会を企画 するなどした結果、活動再開につなげることができた。

-7-

参考：各区分活動状況

区分名	主な内容	
平野区	新規・拡充	<ul style="list-style-type: none"> ・担当地域の住民からうどん講座開催の相談があったので、男性の居場所としてのグループづくりを提案し、麺打ちや料理を通じた交流を目的としたグループづくりを支援した。 ・2月には主要メンバーが集まり、グループの規約と役割分担を決定した。また、3月には区役所の管理栄養士の指導による栄養バランスの取れたうどん講座が開催された。
	継続	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者が多い地域役員に対し、若い世代への関心を促すため、地域交流、多世代交流、子育て支援を目的とした講座を、地域の人的・物的資源を活用し、年数回不定期に開催。 ・講座の開催予定について協議・調整を行い、助成金について情報提供した。また、講座講師の紹介・手配を支援した。
西成区	新規・拡充	<ul style="list-style-type: none"> ・老人福祉センターと共催でeスポーツ体験会を9月～3月まで月に1回体験日を実施。 ・ほっと！ネット西成ひろばにてeスポーツ体験ブースを設営。（参加者：約40名） ・地域資源運営者からeスポーツ出張講座の依頼があり2カ所対応。（参加者：約20名ずつ） ・これまで約200名を超える参加があり、そのうち90%が「またeスポーツを体験したい」と回答。満足度は高い。「定期的にできる場所がほしい」という声もある。
	継続	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍後、百歳体操が再開し、運営状況も安定してきているが女性の参加者が多く、男性の参加率が低い通いの場に、百歳体操で使用しているスペースを活用し、介護予防、認知症予防のための「e-スポーツ・ボッチャ」などが出来る場となるよう取り組んだ。

-8-

2 生活支援体制整備事業の展開①

高齢者の通いの場の充実について

人との交流が週1回未満となることが健康（認知症、要介護、死亡）リスクになるという医学的エビデンスに基づき、全国で住民主体の通いの場づくりを推進しています。

【介護予防に資する住民主体の通いの場の状況】

体操や趣味活動等を行い、住民主体で月1回以上活動し、介護予防に資すると市町村が認めるもの

○ 全国等との比較

		高齢者人口（人） （A）	通いの場の箇所数 （箇所）	参加者実人数（人） （B）	参加率（B/A）
大阪市	R6	673,903	4,553	87,959	13.1%
	R5	675,344	4,342	87,587	13.0%
政令指定都市平均（R5）		7,156,221	38,256	583,401	8.2%
大阪府（R5）		2,364,440	10,127	189,919	8.0%
全国（R5）		35,925,760	157,638	2,418,838	6.7%

○ 本市・全国男女別参加状況

R5	大 阪 市			全 国		
	全体（人）	男性（人）	女性（人）	全体（人）	男性（人）	女性（人）
参加者	27,846	4,993	22,853	688,349	139,294	549,055
構成比	100.0%	18.0%	82.0%	100.0%	20.2%	79.8%

-9-

2 生活支援体制整備事業の展開②

昨年度の課題に対する対応について

令和6年度の有識者会議では、①介護予防の推進について、②地域ニーズに合わせた地域資源の把握・創出についての二点が今後の課題として挙がりました。①、②の課題に対応するため、次のとおり取り組みました。

①「すかいプロジェクト」との連携 ～「す」こやかに「か」いご予防で「い」い人生～

令和7年度より、「これまで介護予防にあまり関心がなかった人」や「特段の理由なく介護予防活動に取り組んでいない人」等への仕掛けを検討し、簡易性、関心度、インパクトやタイミングなどに着目した重点的な取り組みを実施することにより、課題の解決をめざす「すかいプロジェクト」を実施しています。「すかいプロジェクト」では、介護予防を『知る』『始めてみる』『楽しむ』『広げる』の4つの柱で更なる取組を推進します。この「すかいプロジェクト」と連携し、これまで以上に介護予防活動や「通いの場」の周知等に取り組みます。

②「民間企業が有する資源等の調査事業」の実施

すかいプロジェクトのうちの1つの取り組みとして、地域における様々な局面で高齢者の日常生活を支えている民間企業や地域の産業等に携わる様々な主体が実施している多様な生活支援・介護予防サービスに関する調査と分析等を行い、民間企業等有するノウハウや資源及び地域活動への潜在的な貢献意欲を掘り起こすことを目的として「民間企業が有する資源等の調査事業」を実施。（10月中旬に初回調査実施予定）調査を通じて把握した情報等については、各区に配置している生活支援コーディネーターへの連携や本市HP上での公表により、地域住民とのマッチングや活動の実施につなげていくことで、高齢者が介護予防を「楽しむ」ための「多様なメニュー」の充実を図る。

③生活支援体制整備事業の評価指標を変更

昨年度まで、生活支援体制整備事業の実績報告において、地域資源の増加を専ら評価指標（「新規・拡充：10件」、「継続支援：圏域数×3件」）としてきましたが、SC活動は地域ニーズに合わせた地域資源の把握・創出を行うことが重要であることから、今年度から活動プロセスにも着目した評価に変更しました。

-10-

2 生活支援体制整備事業の展開②

④介護サービス情報公表システムによる通いの場のマップ化

各区生活支援コーディネーターが把握している通いの場については、公表の許可を得た通いの場については、国の介護サービス情報公表システムにて公表。介護サービス情報公表システムでは、登録した通いの場のマップ化や、一覧表示ができるため、地域包括支援センターなどの専門職と連携し、生活支援コーディネーターの持つ地域資源をより一層、有効活用できるようになります。

⑤「健康寿命を延ばそうアワード」への応募について

通いの場に参加する方のモチベーションの向上を図るため、厚生労働省が主催する「健康寿命を延ばそうアワード」に本市における通いの場等の取り組みを応募。

【参考】

○「健康寿命を延ばそうアワード」について

介護予防・高齢者生活支援への貢献に資する優れた自助努力活動等を行っている企業・団体・自治体を表彰し、もって、個人の主体的な介護予防・高齢者生活支援の取組につながる活動の奨励・普及を図ることを目的とした厚生労働省の表彰制度。

→ 本市では、過去に都島区の「毛馬コーポゆうゆうクラブ」などが受賞しています。

○ 応募の目的

「健康寿命を延ばそうアワード」に応募する際、活動の参加者を巻き込んで資料作成をすることで、参加者と生活支援コーディネーターが活動の意義や目的について考えることとなり、通いの場等への参加者のモチベーションの向上を図ります。受賞した場合はさらなるモチベーションの向上にもつながります。

○ 令和6年度の応募実績及び令和6年度の応募状況

令和6年度は、中央区におけるヘルスチェックの取り組みと大正区におけるラジオ体操の取り組みを応募しましたが、惜しくも受賞ありませんでした。

令和7年度は、住之江区におけるウォーキング活動の取り組みを応募しています。

-11-